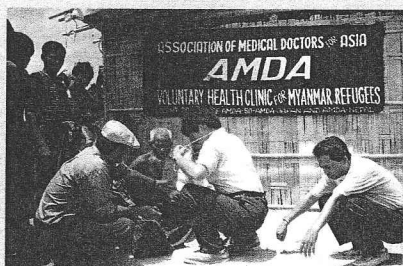


国際緊急援助活動を展開している
AMDA (アジア医師連絡協議会) 代表

すがなみ げる
菅波 茂 さん

AMDA (15か国約900人で構成)は、岡山市橋津に本部を置く医療ボランティア団体。ルワンダ、旧ユーゴ、サハラ以南の地震など、世界16か国に医師や看護婦、ボランティアを派遣して、難民や被災民への救援活動を行っている。今年、日本初のプロトス・ガリ賞 (国連支援交流財団)、三木記念助成金、読売国際協力賞などを受賞した。菅波内科医院院長。



阪神大震災の時の素早い救援活動を、
県民はもっと誇りにしていいと思います。

いきいき
岡山人

— NGO (非政府組織) として医療救援活動を始めた経緯は。

医学部の学生だった昭和四十四年、アジア、中近東を旅行しました。そこで体験したアジアの活気あふれる魅力にとりつかれ、昭和四十七年から医療チームを派遣するようになりました。しかし、昭和五十四年に私と医学部学生とがカンボジア難民の救援に行った際、いち早く駆けつけて現地協力者と活動している欧米の NGO チームに比べて無力さを痛感しました。この苦い経験を教訓に、昭和五十五年、日本、タイ、シンガポール、インドなどによる「アジア医学生国際会議」を設立し、人のネットワークをつくったのが AMDA の母体となっています。

— AMDA は岡山を拠点に活動していますが、大都市で不自由は感じませんか。

岡山には「医療」「教育」「宗教」といった、人間の品位を大切にできる精神風土があると思います。そしてこの三つは、海外で人道援助をする際の重要な要素なのです。その証拠に、今年の阪神大震災の時には、岡山県から最も多くの救援の手が差し伸べられました。日本の NGO の九〇割が東京、五割が大阪に本部を置いて

ています。理由は、資金を出す企業、官公庁が集中しているほか、市民意識が高く、寄付も集まりやすいため財源の確保が容易で、メディアも集中しているため活動の PR がしやすいからです。しかし、根無し草にならず活動を長続きさせるためには、サイレントマジョリティーといわれる多くの住民の理解と、地元自治体との密接な関係が不可欠です。県内では加茂川町、哲多町、和気町、岡山市、倉敷市など、国際交流に積極的な自治体が増えており、自治体の国際貢献活動は、地域おこしにもつながります。今後も密接な関係を保っていききたいと思います。九月からはインターネットを利用した情報サービスを開設。二十四時間運用で世界に向けて活動内容や医療情報の発信を始めています。岡山に本拠地を置いて不便はありません。

— 今後の抱負について聞かせてください。

人道援助を行う国連組織の多くはジュネーブにあります。NGO のお世話をする都市は世界にありません。AMDA も国連及び世界の NGO と手をつないで、岡山を救援活動ネットワークの拠点にしたいと考えています。今年も十一月に「第二回国際貢献 NGO サミット」を岡山で開催します。また、援助プロジェクトのコーディネーターを養成する「AMDA 国際大学」(仮称)を岡山に設立する構想もあります。国際貢献を通じて岡山のイメージを高め、他県からは「目指せ、あの岡山」と言われ、世界の人の心からは「西のジュネーブ」に対して「東のオカヤマ」と言われるようにしたいですね。